



# 情報通

2006.April 4月号  
発行日:平成18年4月1日  
発行:東京税理士会  
情報システム委員会  
題字「情報通」:金井塚 清(豊島)

## XBRLが開く新世界

### 一見えてきた次代の融資実務。

本紙情報通では、昨年来新しい財務データの形式としてXBRLという方式に注目し、3回にわたり紹介の記事を掲載してきました。今回は、私たち税理士が作成した財務諸表がXBRLのデータとして変換されると具体的にどうなるか?つまりXBRLデータが関与先及び税理士事務所から銀行に渡った場合、その後の融資実務が、これまでの紙ベースのデータの受け渡しに比しどれほど効率的に変貌するか、より実務に沿った形で今月後と来月号2回にわたりご紹介いたします。

今回は、XBRL Japanの会員で、同システムの開発に重要な役割を担われている(株)日立製作所様並びに(株)日立システムアンドサービス様よりご提供いただきました。ご多忙の折、私ども税理士向けに噛み砕いた分かりやすい内容としていただきこの場を借りて厚くお礼申し上げる次第です。

#### 【XBRLの概要】

皆様が考える、財務・会計・経理の情報とはどのようなものなのでしょうか? 仕訳?精算表?試算表?それとも、税務申告用の貸借対照表などの財務諸表でしょうか?また、それらはどのような形式ですか?紙に手書きで書かれたものですか?会計ソフトから印刷されたものですか?

総務省の平成15年「通信利用動向調査」によれば、日本のインターネット人口が7千万人超、人口普及率にして6割を超えている今、財務情報が電子化されてインターネットを介して流通するのも時代の流れと言えるでしょう。

文書の電子化にはいくつかのレベルがあります。印刷イメージを画像データにしてFAXや電子メールで送付すれば、遠隔地に対して瞬時に情報を伝えることができます。また、記載されている文字や数値を検索可能な形式で保存すれば、データの整理や再利用が容易にできます。

ここで、もう一步利便性を高めようとする、データの記述に関する共通ルールが必要になります。現在、もっとも普及している共通ルールはHTMLというコンピュータ言語での記述です。インターネットでホームページを閲覧することを「インターネットを見る」と省略されるくらい馴染みがあるものです。ホームページを公開する側と参照する側の、双方がインターネットに接続可能な環境下で、HTTPプロトコルを利用して通信します。公開側はHTMLで記述したホームページを掲載し、参照側はHTMLを解釈して表示可能なブラウザを用意することで、「インターネットを見る」行為を行っています。

次に、財務データについて考えていきましょう。もちろん財務データも、インターネットで「見る」ことができれば便利です。これは財務データをHTMLで記述すれば実現できます。しかし、ご存知のように、財務データには特有の決まりがあります。貸借対照表を例にとると、借方と貸方はバランスしていますし、借方には資産、貸方には負債と資本が記述されています。これらの決まりは「見て」チェックすることももちろんできますが、共通ルール化すれば機械でもチェックできます。そして、共通ルール化の範囲を広げることで、単なるチェックにとどまらず、データの妥当性の検証や高度な財務分析を機械が行えるようになります。XBRLは、機械が財務データを取り扱えるよう共通化した記述ルールなのです。

#### 【XBRLの仕組み】

それでは、XBRLとはどのような記述ルールなのでしょうか?

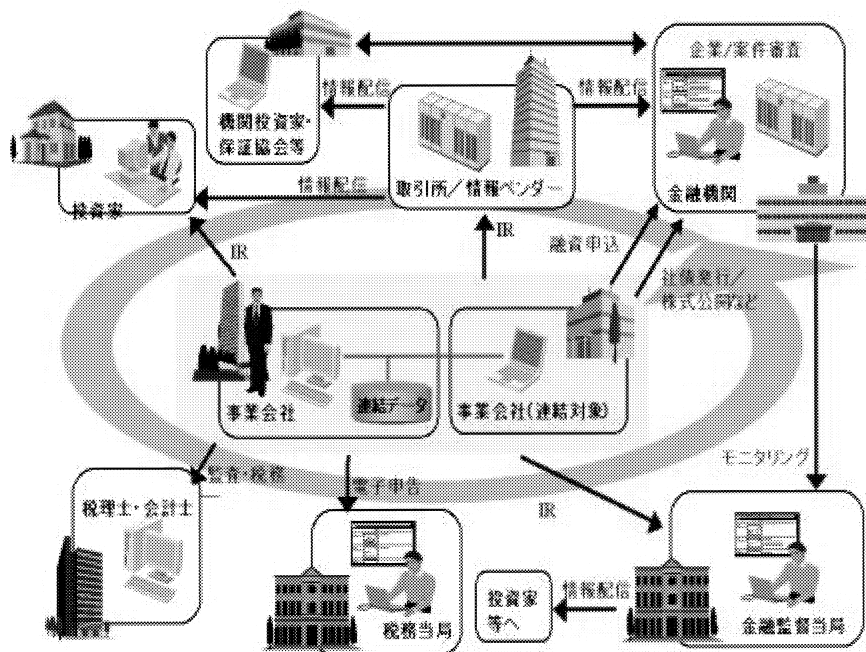
財務データには、会計基準や税法等によって決まる報告すべき内容の側面と、その内容をどのような様式で記述するかという側面があります。XBRLは後者に関する規定です。

「電子申告・納税システム(e-Tax)でXBRLを利用する場合、タクソノミという勘定科目辞書が指定されているから、内容の規定なのでは?」と疑問をもたれる方も多いと思います。もちろん、勘定科目辞書自体は内容の規定です。しかし、XBRLはその勘定科目辞書の記述ルール、つまり様式を規定するものなのです。内容の規定はタクソノミと呼ばれる勘定科目辞書、勘定科目の並び順、計算の階層、勘定科目名によって構成されます。また、XBRLは財務情報の実体(インスタンス文書)の記述ルールについても規定しています。インスタンス文書とは企業の財務諸表の勘定科目「売上高」の値や「現金及び預金」の値等、財務諸表を作成する際の値を指します。そしてタクソノミとインスタンス文書を合わせてXBRL文書と呼びます。

#### 〔適応例:融資受付に税務データを利用〕

まず、適応例をご紹介する前にXBRLの利点について簡単に説明します。XBRL文書とは前述の説明の通り、財務情報項目辞書であるタクソノミと財務情報の実体であるインスタンス文書に分かれています。このタクソノミを財務データの出し側と受取側が共通に持つことで機械的に同じ解釈が可能になります。財務情報の出し側がタクソノミを利用して自社の財務情報を作成して行きます。これがインスタンス文書です。XBRLの登場前であればMicrosoft Word、Microsoft Excelや紙媒体の財務諸表等が使用されていたはずですが、作成されたインスタンス文書を受取側に渡すと受取側はタクソノミをみて財務情報を機械的に解釈してくれます。さらに受け取ったXBRL文書を第三者に渡したとしても、共通のタクソノミがあればまったく同じ解釈をすることが可能になります。

XBRL登場前は財務情報を受取側が解釈するためには、人が目で見てこの勘定科目は何なのかを判断する必要がありました。さらに現状の財務情報のデータ様式は多種多様であり、それらに合わせた手段で財務情報を転記する必要があります。これらに掛かる人の手が減るといえる点から見ても大きな一歩と言えるのではないのでしょうか。



【図1 財務情報サプライチェーン】



【図2 XBRLによる業務効率の向上】

右頁へ

前頁から

それでは、XBRLの利点の一部を見ていただいたところで適応例の紹介を始めたいと思います。2004年11月に日立では融資申込みの際にXBRLを利用したデモシステム(図3参照)を構築、ベルギーで行われた第9回XBRL国際大会に出展し、話題を集めました。

また、2005年11月には同様の仕組みを用いてXBRL Japan金融委員会の実証実験に参加いたしました。上記システムでは企業、税理士事務所、金融機関が登場し、企業が金融機関にXBRL文書で融資の申し込みを行っています。まず、企業はMicrosoft Excelの入力項目にしたがって融資の申込書を入力します①。ここで企業用クライアントツールから「送信」を実行すると、ツールが融資の申し込み情報をXBRL化して、暗号化・署名を行い税理士事務所に送付します②。

次に、税理士事務所はその融資の申し込み情報(XBRL文書)に国税庁へ提出した財務情報(XBRL文書)を添付し、自身の署名を付与して金融機関に送付します③。税理士事務所という第三者の署名をつけることで、財務情報の信頼性を高めることを狙いとしております。金融機関は融資の情報(XBRL文書)を復号化し、財務情報(XBRL文書)の署名を検証してから融資の申し込み内容を審査して④、企業に審査結果を通知します⑤。

XBRLを利用することで財務情報を銀行フォーマット



【図3 融資申込みデモシステム】

トにあわせて再度記載または入力する手間が省けます。これは申し込み時だけでなく、融資実行期間中の決算情報の報告においても同様に利用可能な仕組みで、長期にわたって利用するメリットがあると思います。また、XBRL文書を暗号化することで文書の盗聴を防ぎ、署名を付与することで信頼性を確保しています。もちろん、実適応へ向けていくつかの課題も浮き彫りになりました。将来的には実際の構築例として皆様にご紹介したいと思っています。(・・・以下次号につづく)

★最近の新聞から★

XBRL形式の財務データを活用した銀行融資というのは、実は4月から実用化されます。「新銀行東京」が中小企業向けに来店不要の電子融資申込みサービスを始めるとのこと。新サービスでは、借り手がWeb上の新銀行東京のサイトから融資申込書類を取り寄せてパソコン上で入力。新銀行東京が審査の参考にする財務データには、国税庁の電子申告・納税システムe-Taxで電子申告する際の申告データを活用すること。企業又は税理士が申告データを国税の受付システムに送信する場合、財務諸表部分はXBRLデータに変換されているので銀行側では、このXBRLデータを融資判断に活用しようというわけです。税理士事務所が作成した関与先の申告データは、電子申告によらない場合、提出に際し紙に出力します。受け取った税務署も紙のデータを再度デジタルデータに入力し直します。この作業の重複が毎月全国で繰り返されているわけです。紙のデータの場合事情は銀行も同じ。XBRLデータの活用は、まさに事務方の生産性の向上に大いに期待されます。税理士ICカードを取り出して是非使ってみましょう。(3月9日日本経済新聞参照)

# 東京税理士会会員向け IT研修会のご案内

東京税理士会情報システム委員会

## 1. IT研修・研修内容及び費用

### ① Word入門 全6時間

【内容】パソコン操作の基本となる文字入力、変換、文書編集、保存、印刷の基礎を習得する。  
 【受講の基準】日本語入力やマウスの操作も含めて、まったくパソコン操作経験のない方向けの研修(※1)  
 【費用】13,650円(受講料・教材費・消費税込み)

### ② Excel入門 全6時間

【内容】【表計算の基本となるデータ入力、表作成、四則計算、関数計算、グラフ作成、保存などの操作を習得する。  
 【受講の基準】パソコンを利用して日本語入力やマウス操作はできるが、Excelなど表計算機能は経験のない方向けの研修(※1)  
 【費用】13,650円(受講料・教材費・消費税込み)

### ③インターネット入門 全3時間

【内容】インターネットの利用方法、ホームページ検索、閲覧、電子メールの送受信方法を習得する。  
 【受講の基準】パソコンを利用して日本語入力やマウス操作はできるが、電子メールとインターネットは経験のない方向けの研修(※1)  
 【費用】10,500円(受講料・教材費・消費税込み)

### ④セット講座(全4コース)

【内容】上記、①Word入門、②Excel入門、③インターネット入門を組み合わせて受講し、パソコンの一般的な操作方法を習得する。  
 【受講の基準】①Word入門、②Excel入門、③インターネット入門と同様。  
 【費用】A: ①Word入門+②Excel入門・・・25,200円  
 B: ①Word入門+③インターネット入門・・・21,000円  
 C: ②Excel入門+③インターネット入門・・・21,000円  
 D: ①Word入門+②Excel入門+③インターネット入門・・・35,700円  
 (受講料・教材費・消費税込み)

※1・・・受講の基準は、目安に過ぎないので、自由にご希望の研修をお申込できます。この他にも、中野キャリアスクールによる「しっかりマスターコース」など、もっと勉強されたい方向けのコースもあります。ここで紹介している研修の受講を希望される方は、本会事務局総務課までTELまたはFAXでご連絡下さい。折り返し、申込み手順、研修教室地図等について詳細な内容を記載した「IT研修案内文書」をご希望のFAX宛に送付いたします。

## ◆◆会員向けIT研修の申込みについて◆◆

パソコン等の研修事業を実施している「中野キャリアスクール」の協力のもと、主にパソコン操作方法等に関して初心者を対象とした「会員向けIT研修」を開催しております。ここで紹介している研修の受講を希望される方は、本会事務局総務課までTEL又はFAXでご連絡下さい(書式は何でも結構です)。折り返し、申込み手順、申込み用紙、研修教室地図について詳細な内容を記載した「IT研修案内文書」をご希望のFAX宛に送付いたします。

東京税理士会事務局総務課 連絡先 TEL 03-3356-4461 FAX 03-3356-4469

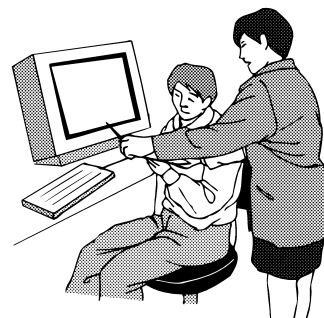
## 2. 研修日程表及び研修場所について

### ① Word (6時間) コース

曜日	月・火曜日	水曜日
時間	*1日3時間ずつ実施し、2日間(月、火)通うコースです。 17:00~20:00	*1日6時間実施するコースです。 10:00~17:00(1時間休憩)
場所	新宿 京王八王子	新宿
月	実施日 講座NO. 講座NO.	実施日 講座NO.
5月	8日・9日 3 33 15日・16日 4 34	10日 62
6月	5日・6日 5 35 19日・20日 6 36	7日 63

### ② Excel (6時間) コース

曜日	水曜日
時間	10:00~17:00(1時間休憩)
場所	新宿
月	実施日 講座NO.
5月	24日 102
6月	14日 103



(ご注意) Excel入門は、新宿校のみでの実施となります。

### ③インターネット(3時間)コース

曜日	水曜日		金曜日	
	*夕方から実施するコースです。		*午後から実施するコースです。*夕方から実施するコースです。	
時間	17:00~20:00		13:00~16:00 17:00~20:00	
場所	新宿	京王八王子	新宿	銀座
月	実施日 講座NO.	講座NO.	実施日 講座NO.	実施日 講座NO.
5月	10日 — 212	12日 233	12日 263	17日 202
6月	7日 — 213	9日 235	9日 265	21日 203
			23日 236	23日 266